



ぶどう特報 #6



2024年6月1日
JA中野市園芸課
JA中野市ぶどう部会

5月中旬の夜温が低かったため停滞しましたが、露地の開花は平年より早い見込みです。梅雨期間は黒とう病・晩腐病等の主要病害感染拡大が懸念されます。概ね10日間隔で防除を進めてください。また、誘引作業を進め、薬液の通りのよい環境づくりに努めましょう。

年度	巨峰開花	シャイン開花	特記
平年	6/5	6/12	過去10年平均値(H26~R5)
2023年(R5)	6/7	6/13	生育停滞により開花平年より遅れる
2024年(R6)	6/4頃	6/7頃	例年にない早さの生育

品種名： _____
 散布日： 6月 _____ 日
 散布量： _____ ℓ

【6月中旬の定期散布 *共通】 前回から10日後

散布時期	落花直後		品種名： _____ 散布日： 6月 _____ 日 散布量： _____ ℓ
散布薬剤	水	100 ℓ	品種名： _____ 散布日： 6月 _____ 日 散布量： _____ ℓ
	グレースフロアブル	25 ml (7日前・2回)	
	スイッチ顆粒水和剤	33 g (30日前・2回)	
	ゾーベックエニベル顆粒水和剤	133 g (45日前・2回) *注意事項①参照	
	グリーンデイズ 等	100 g *葉面散布資材 *注意事項⑤参照	
散布量	400 ℓ / 10a		
適用病害虫	べと病、晩腐病、灰色かび病、チャノキイロアザミウマ、ブドウサビダニ(ミカンキイロアザミウマ)(コガネムシ類)		
注意事項	① 【注意】ジマンダイセン・ゾーベックエニベル等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を2回までとする。 ② 【サビ防止対策】落花状況(花冠の飛び等)を確認して散布する。 ③ 【果紛溶脱防止】展着剤は、今回から第10回の防除まで使用しない。 ④ グレースフロアブルに代えてコテツフロアブル2,000倍(60日前・2回)を使用してもよい。 ⑤ 【果紛溶脱防止】葉面散布剤の混用はブルーム溶脱の恐れがあるため、今回までの混用とする。		

【6月下旬の定期散布 *共通】 前回から10日後




散布時期	落花10日後		品種名： _____ 散布日： 6月 _____ 日 散布量： _____ ℓ
散布薬剤	水	100 ℓ	品種名： _____ 散布日： 6月 _____ 日 散布量： _____ ℓ
	フェニックスフロアブル	25 ml (14日前・2回)	
	トランスフォームフロアブル	50 ml (3日前・3回)	
	ジマンダイセン水和剤	100 g (45日前・2回) *注意事項①、②参照	
散布量	400 ℓ / 10a		
適用病害虫	べと病、晩腐病、黒とう病、褐斑病、スカシバ類、カイガラムシ類(アザミウマ類)		
注意事項	① 【注意】ジマンダイセン・ゾーベックエニベル等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を2回までとする。 ② 【農薬汚れ対策代替】ジマンダイセン水和剤に代えてホライズンドライフロアブル2,500倍(21日前・3回)を使用してもよい。 ③ トランスフォームフロアブルに代えてアドマイヤー顆粒水和剤10,000倍(21日前・2回)を使用してもよい。		

8月上旬に栽培日誌の配布があるまでは、ぶどう特報などに散布日・散布量を記録し、保管してください。

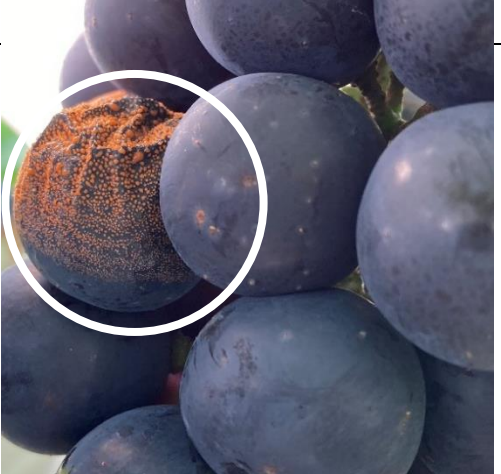
裏面：梅雨時期に特に注意したい病害について記載しています。

梅雨時期に特に注意したい病害


黒とう病

病斑の特徴	<p>果粒：ほくろのような黒い円形（病斑部はやや凹む） 粒発生の場合、上部新梢にも発生している場合があるので注意する。</p> <p>葉：淡褐色～黒褐色の病斑ができ、しだいに穴が開く（鳥の目様） 枝：黒い楕円の中央部灰白色</p>	  
発生場所	<p>果粒・新梢（葉・枝）・巻きひげ</p> <p>4～5月頃の降雨で病斑の上に胞子を多数つくり、雨によって飛散する。 副梢や展葉したばかりの新梢など、柔らかい組織を好む。</p>	
防除ポイント	<p>降雨やかん水で伝染するので、梅雨時期の防除は10日間隔を目安に行う。降雨から2～3日後には発生がないか再確認をする。 感染箇所は切除し園地外へ持ち出す。 定期散布後は速やかに袋掛け作業に入る。</p>	


晩腐病

病斑の特徴	<p>果粒：赤褐色で粘質の胞子の塊を生じ、やがて黒くミイラ化する。 結果母枝や巻きひげの組織内で越冬する（前年発生した園地は要注意）</p>	
発生場所	<p>果粒・新梢（葉・枝）・巻きひげ</p> <p>胞子形成 6月中旬～7月中旬頃最盛期 この時期の降雨による伝染 10月頃（収穫期）まで出現</p>	
防除ポイント	<p>発芽前と落花直後～袋掛け前が重要防除時期 農薬での防除の他に、巻きひげや収穫痕をきれいに取り除く「耕種的防除」も併せて実施</p>	

べと病

病斑の特徴	<p>葉：葉裏に白いカビが見られる 葉に激しく発病すると早期落葉を招き樹勢低下につながる 花穂：全体に粉をまぶしたような白いカビが見られる 幼果：果底部より鉛色に変色する</p>	
発生場所	<p>葉・花穂・幼果</p> <p>6月～7月に低温・多雨多湿で発生多（20℃～24℃）</p>	
防除ポイント	<p>新梢が繁茂し、副梢発生が盛んになる梅雨時期後半が最大の感染期となる 降雨予報前を狙った防除や10日間隔の防除を心掛ける 園地は新梢管理をし、薬剤が通りやすく風通しの良い環境にする</p>	

灰色かび病

病斑の特徴	<p>花穂：穂軸や花蕾の一部が褐変枯死し、花ぶるい症状となる 熟果：裂果部分に発生し、毛足の長い灰色のカビを生じる ：（冷蔵ぶどう）果粒果皮が淡褐色の円形状に広がり変色</p>	
発生場所	<p>花穂・葉・幼果・熟果</p> <p>低温・多湿状況で発生多 成熟期に降雨が多いと裂果に伴い発生増</p>	
防除ポイント	<p>幼果では花冠や花カスが付着した部分等、傷口や死んだ組織に菌が繁殖しやすい。開花期の天候が悪く花冠が飛びにくい場合に発生が多くなる ⇒ 丁寧に取り除く 冷蔵ぶどうの出荷を予定している方は、落花30日の定期散布を必ず散布する</p>	

冷蔵ぶどうの灰色かび病 症状

特報#7：6/14 付け発行予定。落花20日後の定期散布等記載予定。